

第5章

地区別アクションプラン

1 地区別アクションプラン策定のねらい

今回改訂する観光振興プランでは、過去5年間で最も多くの観光客が訪れ、北九州市の観光の顔と言える「小倉都心部」「皿倉・東田地区」「門司港レトロ・和布刈地区」の3地区を重点エリアと定め、リーディングプロジェクトとして地区別アクションプランを策定します。

この地区別アクションプランは、観光事業者、まちづくり団体、交通事業者、地元商業団体など、幅広い関係者へのヒアリングを行った上で策定し、3地区それぞれの魅力の一層の向上・発信に取り組みます。

リーディングプロジェクトの推進による3地区への来訪者の増加とともに、市内全域への周遊促進、もう一か所、もう一泊の「プラスワン観光」へと結びつけることを目指します。



2 小倉都心部

歴史・文化から食・エンタメまで、多様な魅力があふれる都市型観光拠点『城下町 小倉』



小倉城竹あかり

(1) 地域の強み

ア 小倉のまちについて

1602年に細川忠興によって小倉城が築城された後、小倉は城下町、長崎街道の起点として栄え、明治時代以降、重工業を中心とした発展とともに、経済の中心として繁栄してきました。

現在、交通の中心となるJR小倉駅の周辺は、百貨店、商店・飲食店や多くの宿泊施設も立地し、北九州市の顔となっています。まちの中心部においては、夏の風物詩である「わっしょい百万夏まつり」や約3万個の竹灯籠で彩る市民の力による「小倉城竹あかり」などが開催され、多くの来訪者でにぎわっています。

さらに、豊富な地魚を活かした寿司などの海の幸や小倉の郷土料理である「ぬか炊き」、小倉発祥「焼うどん」など、北九州市を代表するご当地グルメも堪能することができます。

イ まちの魅力

(ア) 地域に根差した歴史・食・伝統文化の集積

- 駅から徒歩10分で江戸期の城下町文化を体感できる小倉城・小倉城庭園
- 100年以上の歴史を誇る“北九州市の台所” 旦過市場
- 市民が愛し、育てきた豊かな食文化とそれを楽しめる飲食店街
- 小倉祇園太鼓やわっしょい百万夏まつりなどの伝統行事

(イ) 文化芸術・エンタメ拠点の集積

- 演劇・コンサートやイベントを楽しめる施設(北九州芸術劇場、北九州ソレイユホール、西日本総合展示場など)
- 公営民営問わずバリエーション豊かな文化関連施設(市立美術館分館、松本清張記念館、市立文学館、平和のまちミュージアム、森鷗外旧居、ゼンリンミュージアム、漫画ミュージアム、あるあるcityなど)
- アクセス抜群のミクニワールドスタジアム北九州



平和のまちミュージアム

(ウ) 利便性の高いMICE拠点

- JR小倉駅やレセプションの開催も可能な大型ホテルに隣接するMICE施設(西日本総合展示場、北九州国際会議場など)



国際会議場

ウ アクセスなど

- (ア) 市外からのアクセスの良さ(鉄道、空港・フェリーからの直行バス、高速道路網)
- (イ) 域内周遊の拠点となる豊富な交通手段(鉄道・バス・モノレール・高速道路網・シェアサイクルなど)
- (ウ) ビジネス客から観光客まで幅広い層を集客できるバラエティ豊かな食を提供する飲食店街

(2) 課題と主な取組

北九州市の玄関口となっている小倉駅周辺には、歴史・文化や食、ポップカルチャー、スポーツ観戦など様々な魅力を目的に訪れる人が多くいます。

その訪れる人に、小倉城周辺までのエリア一体で周遊してもらい、より長く楽しんでいただく工夫が求められます。

ア 北九州市の玄関口・小倉の情報発信力の一層の強化

【推進していく主な取組】

- 北九州市総合観光案内所の案内機能・情報発信機能の一層の強化
- 小倉駅JAM広場の一層の活用
- 商店街などと共同した食のイベントなどの開催
- 北九州市ならこれ!と言える新たな名物・おみやげものづくり



小倉駅JAM広場

イ 小倉駅を挟んでの南北回遊性の向上

【推進していく主な取組】

- 小倉城周辺、あさの夕風公園など、駅南北で連動したイベントなどの実施
- MICEや大型イベントへの来訪客に対する小倉駅南口の魅力のPR



あさの夕風公園

ウ 小倉駅に降り立った観光客に小倉城周辺まで足を伸ばしてもらうための一層の工夫

【推進していく主な取組】

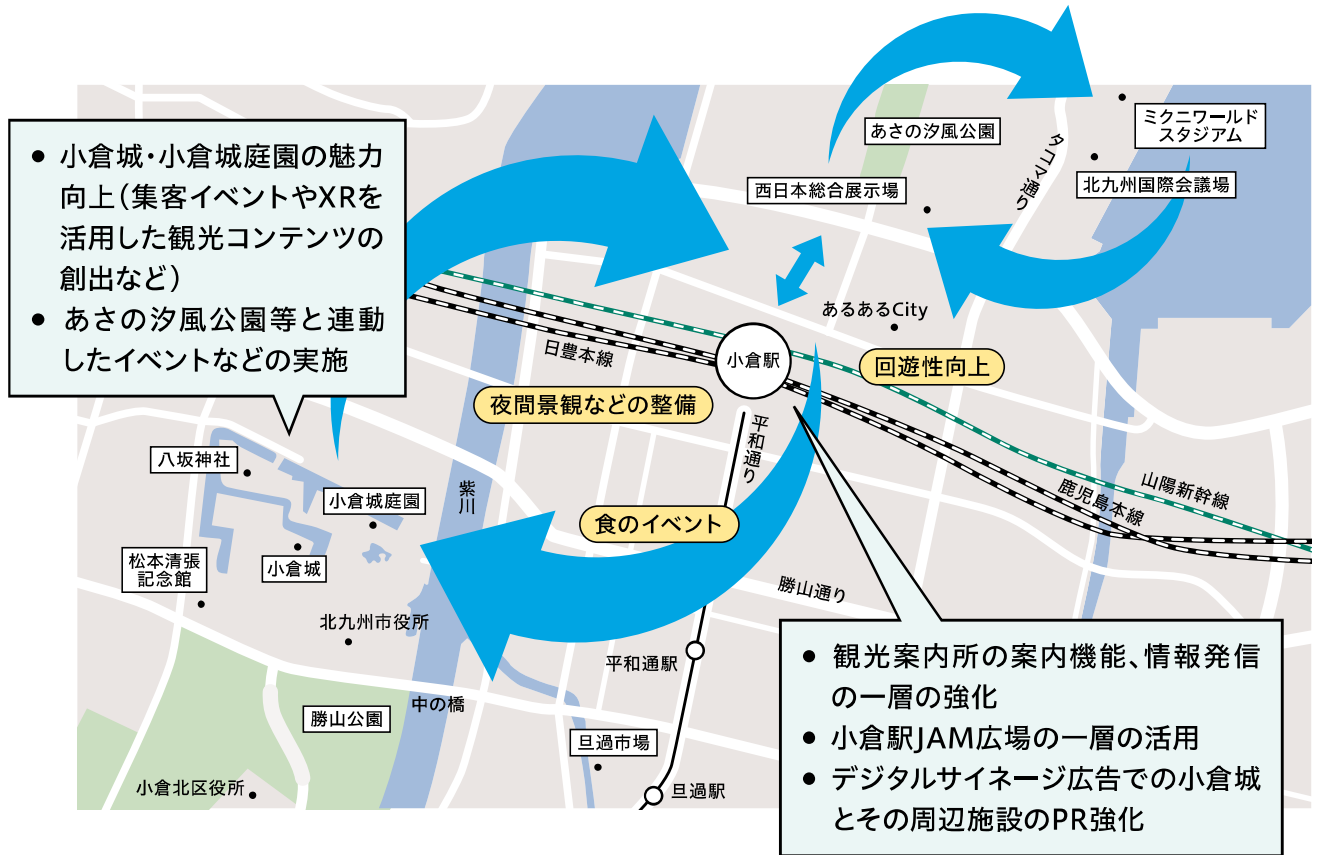
- 小倉城・小倉城庭園の魅力向上(小倉城武将隊などを活用した集客イベント、XR(クロスリアリティ)を活かした天守閣からの城下町再現など)
- 駅周辺のデジタルサイネージ広告での小倉城とその周辺施設のPR強化
- 駅から小倉城までのエリア一体の夜間景観の整備

エ 歴史・文化を体感できる、小倉のまち歩きの魅力向上

【推進していく主な取組】

- まち歩き促進のためのマップ等の整備
- 小倉のまちの歴史に精通する専門市民ガイドの育成・登録の検討

(3) 取組のイメージ



3 皿倉・東田地区

北九州市の「現在」「過去」「未来」をすべて学び、楽しめる “まちごとミュージアム”『皿倉・東田』

(1) 地域の強み

ア 皿倉・東田のまちについて

都心部に隣り合っている皿倉地区は“もっとも身近な大自然”として市民に親しまれ、緑あふれる遊歩道も整備されています。山頂の展望台からは北九州市の街並みが一望でき、夜は「日本新三大夜景都市」全国一位に認定された北九州市を代表する夜景が広がります。

東田地区は、世界遺産や西日本最大級の博物館「いのちのたび博物館」、令和4年4月にオープンし、西日本最大級のアウトレットモール「ジ アウトレット北九州」など、徒歩圏内に文化施設や商業施設など、多くの集客施設が集積しています。

イ まちの魅力

(ア) 皿倉地区

- 昼は市街地を一望、夜は日本一の夜景を堪能できる好立地
- 山頂からの大パノラマを楽しむことができる
- 自然林が多く、軽登山や癒しの空間としてのポテンシャル
- 車窓から市内を一望できる西日本最長級のケーブルカー



皿倉山ケーブルカー

(イ) 東田地区

- 幅広い層に愛され、学びの拠点としても活用されている質の高いミュージアム群（いのちのたび博物館、スペースLABO、環境ミュージアム、KGG（北九州グローバルゲートウェイ）など）
- 世界遺産「官営八幡製鐵所関連施設」、東田第一高炉跡などの産業革命遺産群
- 西日本最大級のアウトレットモール「ジ アウトレット北九州」
- まつり起業祭八幡など、イベント会場としても活用できる東田大通り公園



スペースLABO

ウ アクセスなど

- (ア) 東田地区は全施設ともJRスペースワールド駅徒歩圏内のコンパクトさ、皿倉地区も駅などからの無料シャトルバスを利用し手軽に行ける
- (イ) 車で20分程度で、河内藤園など自然に親しむことができる

(2) 課題と主な取組

自然や夜景スポットなどの魅力を持つ皿倉地区と、ミュージアム施設や商業施設が集積する東田地区は、それぞれ異なる魅力があります。この地区を訪れた人がエリア一体を周遊し、より長く滞在してもらう工夫が求められます。

皿倉地区

ア 山頂周辺施設などの快適性の向上

【推進していく主な取組】

- 施設や設備(トイレ、レストランを含む)のリニューアルの推進

イ 山麓駅から山頂まで観光地としてのわくわく感の醸成

【推進していく主な取組】

- 皿倉山全体のブランド力の強化(案内サインやロゴ、キャッチコピーなど)
- 山頂での遊び場や天空ドームの設置による感動空間の形成

ウ 皿倉地区へのアクセス向上

【推進していく主な取組】

- 小倉都心部や東田地区などからのアクセス向上(東田地区からのバスの運行体制の再検討を含む)



皿倉山ケーブルカーシャトルバス

東田地区

ア 各ミュージアム施設の魅力の向上・域内施設を繋ぐストーリー化・発信力の強化

【推進していく主な取組】

- 域内のミュージアム施設(いのちのたび博物館、スペースLABO、環境ミュージアム、世界遺産関連施設、KGG(北九州グローバルゲートウェイ))のPR、案内機能の一元化の検討
- 域内共通入場券(電子チケット)の販売の検討
- 市立美術館や旧安川邸など近隣スポットとの連携の検討



旧安川邸

イ 東田地区来訪者の皿倉地区への周遊促進に向けた一層の工夫

【推進していく主な取組】

- 地区全体の発信力向上(北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ!北Q州」での皿倉・東田地区の特設ページの作成、わかりやすいエリア内マップの作成など)

ウ 東田地区内の回遊性の向上

【推進していく主な取組】

- 東田大通り公園などを中心とした、歩いて楽しいウォーカブル空間の創出